

第27回シンポジウムレポート

人とロボットの交差点～ロボットデザイン

2004年7月9日(金)

実施日時:2004年7月9日 10:00～17:00
会場:工学院大学 新宿キャンパス 11階 第5会議室
参加者数:41名
オーガナイザー&司会: 河合俊和 ((株)日立製作所 機械研究所)

今回のデザインを取り上げたシンポジウム, 本学会では異色のセミナーでしたが, 対人口ロボットにご興味のある多数の方々にご参加頂き, 盛況に開催することができました.

<第1話>「ロボットのデザインって何?～パーソナルロボット「PaPeRo」を事例とした“やりとり”のかたちづくり～」

NECデザイン チーフデザイナー 長田純一先生から, PaPeRoを例に, “対人口ロボットにはキャラクターデザインによる個性が重要である”とのお話を頂きました. 実際にロボットを持ち込んで頂き, 対話の実演を兼ねたご講演は好評でした. しばらく触れてないので忘れられていた点は, ロボットにも日々の愛情を注ぐ大切さを知りました.



<第2話>「ロボットデザイン ～工学的研究の用途への実証～」

フラワー・ロボティクス 代表 松井龍哉先生から, SIG, PINO, Posy, Palette, P-noir, Platinaを例に, “ロボットの生息場所を研究室から世の中に変えるには人間社会に馴染むデザインが必要”とのお話を頂きました. PaletteやPosyのポストも交えたアート系のご講演は, エンジニアからは特に興味深い内容でした. 会場機材の不具合により, 松井先生・聴講者の方々に大変ご迷惑をお掛けしましたこととお詫び申し上げます.



＜第3話＞「ロボットプラットフォーム「HRP-2」開発における意匠デザインと機能開発の関係」

川田工業 HRIS開発室室長 五十棲隆勝先生から、HRP(人間協調・共存型ロボットシステム研究開発プロジェクト)を例に、“重量などの厳しい制約がある中、機能を積上げ、かつ格好いいロボットを作るエンジニアリング設計としてのデザイン”についてのお話を頂きました。デザイナー(第4話の出淵先生)とのやり取りの中で、高い仕様を満たす現場でのロボット設計開発に関するご講演でした。本日唯一のメーカーエンジニアの講師であり、プロジェクトXばりのご苦労に親近感を持ちました。



<第4話>「空想と現実の邂逅・文化としてのロボットスタイリング」

デザイナー 出淵裕先生から、HRP-2を例に、“デザインは文化などから多面的に創り上げられるもので、機構の制約を知った上でのスタイリングというアプローチもある”とのお話を頂きました。多くの映像関係のメカニックキャラクターをデザインされた先生のご講演は、マイク一本で聴講者を魅了されました。パトレイバーをモチーフにデザインされたHRP-2を含め、キーワードは“格好いい！”でした。



<第5話>「ヒューマノイド・ロボットとデザイン」

早稲田大学 理工学部教授 高西淳夫先生から、様々なヒューマノイド・ロボットを例に、“デザインという切口でヒューマノイドロボットを見ると、人型を通して人を見るということで多様な見方があり、それが多くのデザインに繋がっている”とのお話を頂きました。民族・国家・文化的視点から法律・制度問題まで、多岐に渡る内容のご講演でした。福岡から無事にトンボ帰りして頂き、ありがとうございました。



5つの講演を通しますと、“キャラがたって人間社会に馴染んで、必要な機能を持ちつつ格好いいロボットを各人の視点からデザインする”ことが、人とロボットの交差点になるのだな、というまとめになりました。聴講者の方々には、今後の研究開発に新たな視点を持ってもらえたと思いますので、これから世に出るロボットに今回のシンポジウムの成果が活かされることを願っております。

最後に、この場をお借りして、ご講演頂いた講師の先生方および聴講者の方々に感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。不慣れなオーガナイザで色々ご迷惑をお掛けしましたが、今後もロボット学会をどうぞよろしくお願い致します。

文責 河合俊和 ((株)日立製作所 機械研究所)
